

日越小学校 第4学年 生活・総合年間活動計画

テーマ；地域防災

教育目標： かしこく きよく たくましく

総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、自分の生活と地域の事象とのかかわりについて探究することを通して、多面的に追究する方法を身に付け、そこにある問題を主体的に見出し、仲間と協力して問題を解決するとともに、よりよい生活を創り出そうとする。

本活動の探究課題

○防災のための安全な町づくりとその取組

近年、防災への意識が高まってきている。地域の人々の命を守る意識を高め、取り組んでいくことは大変重要であるが、想定ができないこと、経済的な問題などにより、対策を進めにくいといったことにより、取組に差があることも指摘されている。さらに、高齢化、核家族化など、深刻な現代社会の課題も浮き彫りになる。

地域の専門家から、防災の在り方とその価値について学ぶとともに、地域の現状をしっかりと受け止め、簡単には解決できない問題でも、どのようにするとよりよくなるかを考え、実行していくことで、社会の一員として行動することのよさを実感するとともに、よりよい在り方を追究し続ける子どもを育みたい。

探究を通して育成を目指す資質・能力

- (1) 学習方法に関すること
 - ・問題状況の中から課題を発見し、設定する
 - ・解決方法を考え、見通しをもって計画する。
 - ・事象を比較したり、関連付けたりして考える。
 - ・相手や目的に応じてまとめ、表現する。
- (2) 自分自身に関すること
 - ・自らの行為について意思決定する。
 - ・目標を設定し、課題の解決に向けて行動する。
 - ・自らの生活の在り方を見直し、実践する。
- (3) 他者や社会とのかかわりに関すること
 - ・異なる意見や他者の考えを受け入れる。
 - ・他者と協同して課題を解決する。
 - ・課題の解決に向けて地域の活動に参加する。

活動の構想

- 導入段階で、地域の防災にかかわる人々から、災害の現状、対応策、減災に向けた準備と、防災について段階を踏んで学んでいく。さらに、学習内容とともに、教えて下さる人々の思いについて深く考えることで、地域の人々を守りたいという思いや、よりよいかかわりについて深くとらえていく。
- 防災の必要性を十分に理解したうえで、地域の現状について子ども自らがリサーチする。重要性は分かっているながらも準備が進まないことや、一人暮らしのお年寄り家庭が多数あり、対応が難しい現状について実感を伴いながら認識していくことで、子どもの課題意識を強くさせたい。
- 課題を明確にした段階で、自分たちにできることは何かを考えていく。たとえば、地域の人々の意識を少しでも変えるために、防災新聞を発行し、感想をもらう。学んだことを伝えるために、地域の人々を対象とした研修会を実施する。お年寄りとの関係を構築するために、家庭訪問と啓発を定期的実施するなど、自分たちでできる活動を実際に行うことで、地域の一員として生きることのよさや充実感、自身を育みながら、よりよい社会をつくるために何ができるか考えていく力を育んでいく。

【連携・協力】

総合コーディネーター 宮下 貞昌
防災士 丸山 隆、石黒 満子、栗林 弘一
ふるさと未来創造堂 中野 博嗣